

【樹木・草花の部屋】

ツワブキ（キク科キク亜科ツワブキ属 *Farfugium japonicum*）

和名；ツワブキ（石菖・艶菖） **別名**；ツワ、ツヤブキ、イシブキ **英名**；

マツ目 常緑の大高木

原産地；中国、台湾

花言葉；

花の色；黄



← 写真－1 ツワブキ

撮影日：2012年11月7日

撮影場所：奈良県大和郡山市

M邸にて

撮影者：Mさん

草丈は 50cm 程度。地下に短い茎があり、地上には葉だけが出る。葉は根生葉*で葉身は基部が大きく左右に張り出し全体で円形に近くなる。長い葉柄を持ち、葉柄は大きく切れ込んだ葉身の中心につく。これらの点はフキによく似ている。

*こんせいよう 根出葉と同じ 植物の茎が極端に短いため、根や地下茎から直接出ているように見える葉のこと（根から出る葉はないですが。）

写真－2 ツワブキの葉 ⇒

撮影日：2012年11月7日

撮影場所：奈良県大和郡山市

M邸にて

撮影者：Mさん

その葉は厚くて表面につやがあり、緑色が濃く、若いときには綿毛が多い。花期は 10-11 月。葉の間を抜けて花茎を伸ばし、その先端に散房花序をつけ、直径 5cm 程度の黄色い花を数輪咲かせる。

ちなみに、フキは夏緑性、ツワブキは常緑性。日陰でもよく育ち、園芸植物として、日本庭園の石組みや木の根元などに好まれる。斑入りの葉を持つものも・・・。



【樹木・草花の部屋】

写真-3 ツワブキの花 ⇒

撮影日：2012年11月7日

撮影場所：奈良県大和郡山市

M邸にて

撮影者：Mさん



<ちょっと一言>

ツワブキの名は、艶葉薔（つやばぶき）、つまり「艶のある葉のフキ」から転じたと考えられているそうです。沖縄方言で「ちいばっぱ」。津和野町の名前の由来は「石薔の野」であるとか・・・。

日本では本州の福島県・石川県以西から四国、九州、琉球諸島（大東諸島と魚釣島を除く）に、日本国外では朝鮮半島、中国、台湾に分布。の模様などの異なる多くの変種・園芸品種があるそうです。

民間薬（生薬名たくご）として、茎と葉を打撲や火傷に用いる。フキと同じように茎を食用とすることもあり、フキを原料にした煮物と同様に「キャラブキ」と呼ばれることもある。有毒物質のピロリジジナルカロイドを含んでいるので要注意。